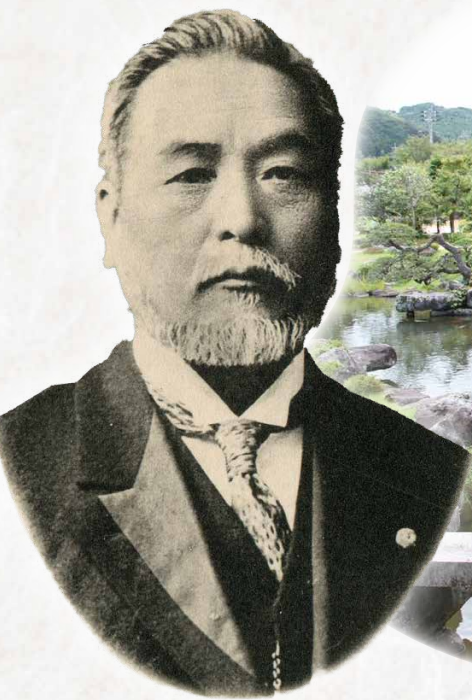




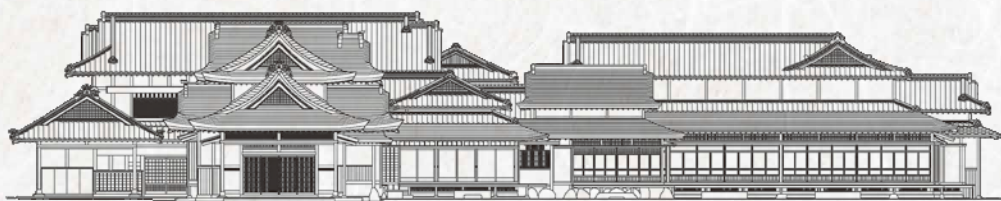
藏内次郎作(1847-1923)



朝倉文夫作 伝藏内次郎作胸像



国指定名勝 旧藏内邸



藏内氏と朝倉文夫

彫刻と庭園について話そう。

日本彫塑界の最高峰 朝倉文夫が大正7年(1918)に制作した伝藏内次郎作胸像(ブロンズ製)が
新発見!! 築上町に寄贈され、旧藏内邸で初公開。近代彫刻と庭園の専門家が大大に語ります。

解説

展示中の藏内氏胸像を見ながら田中先生による解説。
庭園散策と仲先生による旧藏内氏庭園の見どころ解説。

令和7年

10月26日(日)

講演 13:30~15:30

講師：仲 隆裕(京都芸術大学歴史遺産学科教授)
田中修二(日本大学芸術学部美術学科教授)

定員：50人 参加費無料(別途入館料が必要)

会場：旧藏内邸 大広間(福岡県築上町上深野396)
TEL 0930-52-2530

申込：文化財保護係(TEL0930-52-3771)に
お電話でお申し込みください。



主催 / 築上町教育委員会 後援 / 福岡県市町村名勝庭園連絡協議会(柳川市 飯塚市 みやま市 添田町 川崎町 築上町)

この印刷物は築城飛行場関連再編関連特別事業で制作しました。

藏内 次郎作 (1847—1923)

弘化4年(1847)、豊前国築城郡深野村(現築上町大字上深野)で生まれる。藏内家は中世、この一帯を治めた豊前宇都宮氏の家臣の末裔で、近世以降は代々庄屋を務めた。次郎作も庄屋を務めたが、30歳代半ばに米相場に失敗し散財すると、先に炭坑に着手していた久良知政市と甥の保房を頼り筑豊に赴き、炭坑経営に関わった。明治41年(1908)、61歳で衆議院議員に初当選し連続5期務めた。その間、田川銀行や宇島鉄道、小倉鉄道(現JR日田彦山線)等の設立に貢献した。こうした田川郡の発展に寄与した功績により、田川郡の中央、鎮西原に新設される鎮西公園の一面に藏内次郎作の銅像が建設されることとなった。制作は朝倉文夫(1883-1964)に依頼され、大正7年(1918)12月に契約が締結された。契約書には「藏内翁寿像原型立像高さ一丈六尺(4.85m)・・・フロックコート姿に調和せしめるよう設計」とある。(添田町長岩崎高藏編1924年『藏内次郎作翁餘影』による)

*寿像とは本人の生前に建設する像のこと。

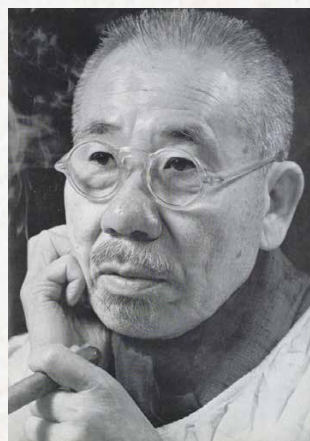


藏内次郎作銅像
(朝倉文夫作)



鎮西公園内
(田川市伊田)

銅像本体はアジア太平洋戦争末期の金属供出により失われた。現在は戦没者慰霊塔となっている。台座の石材は岡山県産赤水晶入花崗岩で、藏内家の家紋、左三巴文が今も残る。銅像写真/北澤恵昭・田中修二監修2009年『偉人の傍』ゆまに書房



朝倉 文夫

写真/国立国会図書館「近代日本人の肖像」



あさくら ふみお

朝倉 文夫 (1883—1964)

明治16年(1883)、大分県大野郡池田村(現豊後大野市)に生まれた朝倉文夫は、19歳の時に実兄の彫塑家、渡辺長男を頼り上京し、彫塑と出会った。翌年、東京美術学校(現東京藝術大学)に入学し、明治40年(1907)に同校卒業後、本格的に創作活動をはじめた。文部省美術展覧会で受賞を重ね、作家としての地盤を固め、卓越した技巧により写実を追求し、「墓守」(石膏原型が重要文化財)をはじめ、数多くの優品を残した。また、教育者としても盛んに活動し、日本の彫塑界をリードする中心的な存在として活躍した。昭和23年(1948)には、彫刻家としてはじめて文化勲章を受賞し、昭和39年(1964)81歳で亡くなった。

朝倉は生涯に約400点の肖像彫刻作品を制作した。現在、朝倉彫塑館(東京都台東区)に700点以上の石膏原型が保存されるが、石膏型の大半は関東大震災(大正12/1923)で焼失し、残念ながら鎮西公園内の銅像や今回発見の胸像の石膏型は残されていない。

朝倉の住居兼アトリエで門下生教育の場だった朝倉彫塑館の敷地全体は「旧朝倉文夫氏庭園」として国の名勝に指定される。

なお、鎮西公園銅像の契約が上記のとおり大正7年(1918)。今回発見の胸像制作年と同じであることから、この胸像は鎮西公園銅像の習作の可能性が高い。また、若い頃の次郎作を表現したとも考えられ、興味深い。

今回発見の胸像サイン「文夫作1918」とある。

講師プロフィール



仲 隆裕 (なか たかひろ)

1963年生まれ。千葉大学大学院園芸学研究科修了。京都市文化財保護課文化財保護技師(記念物担当)、千葉大学助手(園芸学部)などをへて、現在、京都芸術大学歴史遺産学科教授。日本庭園・歴史遺産研究センター所長。農学博士(京都大学)。日本庭園史、遺跡庭園学を専攻。庭園文化史研究、

文化財庭園を中心とする遺跡の保存修復・整備に取り組む。元文化庁文化審議会文化財分科会第三専門調査会委員(名勝委員会)。主な著書に共著『庭園史をあるく・日本・ヨーロッパ編』(1998年)、『京都の庭園・遺跡に見る平安時代の庭園』(2023年)など。

田中 修二 (たなか しゅうじ)

1968年京都市生まれ。成城大学大学院文学研究科博士課程後期修了。博士(文学)。大分大学教育学部教授をへて、現在、日本大学芸術学部教授。専門は近代日本美術史、特に彫刻と京都の絵画。屋外彫刻調査保存研究会運営委員。主な著書に、『近代日本最初の彫刻家』(1994年)、共著『竹内栖鳳とその弟子たち』(2002年)、編共著『近代日本彫刻集成』全3巻(2010-13年)、『近代日本彫刻史』(2018年)、『福田平八郎 人と言葉』(2024年)など。

